

～ 知恵と技を活かして農業を元気に ～

山武農業フォーラム開催

農業フォーラム実行委員会主催により、第7回山武農業フォーラムが昨年11月に、300名を越える参加のもと、山武市のぎくプラザで開催されました。マーケティングプロデューサーの平岡^{しげる}豊氏を講師に招き、地域特産物の開発・販売・宣伝、地域の協力関係の構築等、山武地域の農林振興について、ユーモアを交えわかりやすくお話していただきました。更なる消費をうながす大きなおにぎりの販売等、様々なヒントが得られたと参加者から感想がよせられました。続いて、消費者との交流、ネギのブランド化など活動事例の発表が行われ、懸命な取り組みの姿勢に感激の声が多数聞かれました。



参加者は熱心に聞き入っていました

おいしいニンジンづくりに向けて

JA 山武郡市園芸部人参部会では、本年度より良食味品種の栽培を拡大しています。生産だけでなく、ニンジンの消費拡大に取り組む必要が出てきています。そこでおいしいニンジンの食べ方をPRするため、生産者のアイデア料理を持ち寄り試食する会が、11月26日に睦岡支所で開催されました。

当日は17種類もの料理が並んだほか、慣行品種との比較用に、蒸しニンジンなども用意され、参加者はニンジンの品種や料理法による良食味の活かし方について認識を深めました。

当日評判の良かった「ニンジンのたらこ炒め」「ニンジンと牛乳の二色かん」は、さっそく写真付きのリーフレットとなりました。他の料理も順次販売促進に活かされていきます。



どれがおいしいかな？

さんむフォレストとLLP グループ「木と土の家」の住まいづくり

「山武杉」は美しく、やさしさと強さを兼ね備えた千葉県が誇る住宅用の建材です。かつて、山武地域の住まいは当たり前のように山武杉でつくられていました。また、山武杉を扱いなれた大工さんも沢山いました。しかし、今では、山武杉も大工さんも量産される規格型の住宅の影で忘れられた宝物となっています。グループ「木と土の家」は山武杉の地産地消を目指すものです。地元の大工さん建築設計者等で、山武杉を使って深呼吸したくなるような空気に満ちた健康的な住まいづくりに取り組む有限責任事業組合(LLP)を立ち上げました。これらの取り組みを通じ、若い職人さんたちの声が響く活気ある山を取り戻し、さらには、山林の再生と里山環境の保全にも役立つための活動となるよう推進しています。山武杉を使った住まいづくりについて詳しくお知りになりたい方は、改良普及課まで問い合わせ下さい。



ふんだんに山武杉が使われています



ぬくもりのある内装

シリーズ・旬の味

さといも

さといもは、芝山町や山武市山武地区を中心に 464ha の作付けがあり、県内でも有数の産地です。腸の調子を整える食物繊維も豊富に含まれるさといもは、秋に収穫され、土の中で貯蔵され春先まで出荷されていきます。身の締まったさといもをじっくり煮てみそをかける農家の味を紹介します。

さといもの田楽 材料(4人分)

サトイモ(小イモ) 12個

白ごま 小さじ1

田楽みそ

みそ 70g

砂糖 大さじ3

みりん 大さじ1

だし汁 大さじ2

卵黄 1個分

○作り方

- 1.サトイモの皮をむき、塩もみして洗いぬめりを取る。
- 2.サトイモを鍋に入れ、かぶる位の水を加えて強火でゆでる。
- 3.沸騰したら水にとり、再び柔らかくなるまでゆでる。
- 4.卵黄を除く調味料を鍋に入れ、弱火にかけ木じゃくしで混ぜながら煮詰める。火を止めてから卵黄を混ぜ、田楽みそをつくる。
- 5.サトイモの水分をとり、竹串に3個つつさして田楽みそをぬる。白ごまをふりかけ250度のオーブンで8分焼く。

和牛 ～この路一筋～

今回は、昨年12月に設立された「山武地域和牛生産組合」の初代組合長に選任された、山武市松尾町の高宮保之さん(80歳)を紹介します。

高宮さんは、黒毛和種繁殖牛20頭・肥育牛100頭を、後継者である長男の信和さん(42歳)と飼育しています。研究心旺盛で、黒毛和種の改良増殖に意欲的に取り組み、共進会で農林水産大臣賞を6回受賞するなど、本県肉用牛改良の指導的農家となっています。

また、千葉県肉牛生産農業協同組合長として、黒毛和種の登録、飼養管理指導及び改良・増殖対策等を推進し、和牛の振興と組合事業の発展に貢献しており、平成19年春、黄綬褒章を受章されました。「山武地域にもようやく組合ができ、今後ますます地域の和牛生産振興の発展に努めていきたい」と意欲的です。11名の組合員と共に研修会、視察などを行い経営の安定につながる取り組みを推進していきます。



手塩にかけた和牛と共に

新しい指導農業士・農業士を紹介します。

昨年11月16日、千葉市内で、今年度の指導農業士・農業士の認証式典が開催され、山武地区では指導農業士4名、農業士1名が新しく認証されました。

指導農業士

指導農業士は、農業技術・経営管理能力等に優れており、担い手の指導に理解と熱意があり、積極的な指導支援活動ができる方です。

鈴木(すずき)成史(まさひと)さん・伸子(のぶこ)さん（山武市）

水稲を主体とした複合経営を行っています。特に水稲は、大型機械を導入し、省力化を図り、ちばエコ認証を取得し、安全・安心な農産物を提供しています。また家族経営協定を締結し、積極的なパートナーシップ経営を実践し、後継者育成に積極的に取り組んでいます。

渡邊(わたなべ)明(あきら)さん・和代(かずよ)さん（山武市）

施設野菜・露地野菜と水稲の複合経営を行っています。特に、施設野菜は、土作りを積極的に実践し、周年多品目栽培を行い系統出荷による直販・直売しています。また、男女共同参画活動の牽引者として地域農業発展に寄与しています。

農業士

農業士は、地域農業の中核的な農業者で、青年農業者の集団活動においてリーダー的な方です。

長谷川(はせがわ)強志(つよし)さん（山武市）

露地野菜(ねぎ)と水稲との複合経営を行っています。特に、地域特産のねぎ栽培においては、全国で最も早い時期にチェーンポット苗の移植機利用技術の確立を図っています。この技術は、地域でのねぎ栽培省力化に多大な貢献をしています。

以上の5名の方々が今年度認証されました。今後のご活躍を期待申し上げます。